



ROTARY INTERNATIONAL

1995年 7 月20日

No. 2

Governor's Monthly Letter



クラブ会長・幹事殿控

『会員増強及び拡大月間』—— 8 月



ニース国際大会会場にて

国際ロータリー第2760地区 ガバナー 石川和昌 / DISTRICT 2760 Governor Kazumasa ISHIKAWA

〒440 豊橋市花田町石塚42-1 豊橋商工会議所内 PHONE (0532) 53-0666 FAX (0532) 53-0667

“ 会員増強、拡大 ”

1 人、1 人のつとめ、女性会員にも目を向けて。

1995～'96年度

国際ロータリー第2760地区

ガバナー 石川 和昌

新年度がスタートしてから約1ヶ月、会長エレクト研修セミナー、地区協議会、年間計画、予算等、慌ただしく過ごされた事と思います。

特にニースの世界大会へ出席された方々はブラウンR.I.会長から直接、今年度テーマ「真心の行動」「慈愛の奉仕」「平和に挺身」について聞かれ、その心をご理解頂けた筈です。

ロータリーの良い所は毎年指導者が変わる事です。人が変わると新しい情熱と新しい知恵が生まれます。

クラブ計画書に依る諸行事も次々とあるでしょうし、毎月、色々な強調月間もあります。たった1年しかない任期です。どうか思う存分、この情熱と知恵をロータリーの奉仕に注いで下さい。

さて、8月は会員増強及び拡大月間です。会員増強は内部拡大であり、クラブの発展には欠かせません。新しい職業分類表は既に出来ていると思いますが、未充填職業分類表を直ぐ検討して下さい。女性会員にも目を向けて下さい。貴クラブの地域内に必ず適当な候補者が居る筈です。今年、世界では8名の女性ガバナーが活躍しています。これが世界の現実でもあり、流れなのです。「量か質か」の議論も長い歴史の中では尽きる事の無い問題です。

然し、いかなる組織にとっても増強無くしては衰退の道を辿るしかありません。

ブラウン会長は3つのテーマの最初に「真心の行動」を掲げられました。行動を起こすには力が必要です。

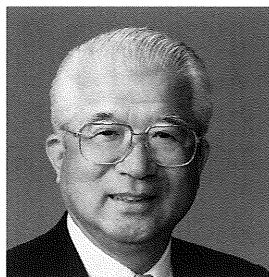
然るに、米国の現状は会員数の減少が起っています。現在、世界に於いて、ロータリー増強を支えて居るのはアジアであり、中でも韓国パワーなのです。

今や、国際ロータリーはポリオプラス、世界社会奉仕を始め、壮大なプロジェクトを持ち、それを推進する為の強力な組織を持っています。

ブラウン会長はこの様な現実から増強問題を提起され、「カルガリーへの挑戦」と題し、増強をこの年度、積極的に推進したクラブ上位50位迄をカナダ・カルガリーの世界大会で華々しく表彰する様に言われています。

もう1つの問題は外部拡大です。即ち、新クラブの設立による増強です。既に充実されている当地区にとっては大変な事であろうと思います。然し、小さな芽はある筈ですから、いち早くその兆しを発見し、上手に育てて下さい。

クラブの発展はロータリアンひとり一人のつとめである事を忘れず、お互いに頑張りましょう。



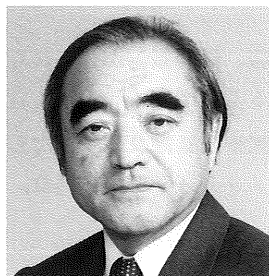
地区拡大委員会

委員長 鈴木 孝平

前年度に引き続いて本年度の地区拡大委員長を拝命いたしました。前年度は幸運にも名古屋港ロータリークラブ会員各位のご尽力により、特別代表綱島彰君のもと、名古屋西南ロータリークラブが3月9日創立されました。3月2日の新クラブオリエンテーションに小生も講師として招かれ、30分間お話をさせていただきましたが、新会員の皆様方の態度とか反応から受け

た感想は、大変有能でロータリアンとしての資質としてはすばらしいものをもっている方々ばかりだという事でした。女性会員も4名入会されましたが、男性に劣らない立派な人達でした。地区内での活力あふれるクラブに成長するのは明らかです。本年度も可能性を追求する中で、新クラブ発足の糸口のあるクラブは地区拡大委員会にお計りいただければ幸甚に存じます。

名古屋西南ロータリークラブの創立にご尽力された方々の体験談をお聞きしましても、私が知立ロータリークラブの特別代表を務め新クラブの創立に関係した体験からも、「誕生の喜び」は苦勞の何倍かに匹敵するものがある事を申し添えまして委員長就任のご挨拶といたします。



地区会員増強委員会

委員長 飯田 幸雄

1905年に3人で発足したシカゴRCが創立されて以来、ロータリーは順調に発展成長を続け、今や世界150の国に拡がりクラブ数27,384、会員数1,203,726名となっております。ポール・ハリスの言葉を借りれば「正にロマンチックな組織拡大の物語である」といえましょう。

しかしながら、近年ロータリー発生の地米国では、クラブ数は増加傾向にあるが、会員数は1993年の421,953人をピークとして少々減少傾向を示しております。R.I.全体では新クラブにより会員が増加するが、年間約10%の退会者があり、既存クラブの会員が減少

し、会員の年間増加率は年々下がり続けています。

したがって、本年度R.I.会長ブラウン氏が重点目標の一つとして会員増強への挑戦を要請されている意義が理解されましょう。

そして各クラブに会員数の半期の純増をクラブの規模に応じて、会員数50名以下で2名、51～150名で3名、151名以上で4名という目標を設定しておられます。

今こそ会員一人一人が、かつてR.I.会長のダクターマン氏が指摘されたように、自分をスポンサーしてくれた人があったからこそ入会出来たということを再認識し、ロータリーを分かちあえるような若くて将来性のある優秀な人材を発掘し、自から進んでスポンサーになる勇気と努力が要望される時期にきているのではないのでしょうか？

このことは活力と魅力あるクラブ作りへの貢献につながる重要な要素となると思っております。

ニースで “BE A FRIEND”

1995年 国際ロータリー年次大会

1994～'95年度の掉尾を飾る世界大会は南フランスのニースで6月11日から14日迄、華々しく、開催された。

登録人員は33,444名。内、主催国フランス9,815名、米国6,260名、日本4,586名、伊1,658名、英国1,607名、独710名、韓国683名の順で、参加国は137の国家及び地域に上った。

大会は市の中心部にあるパレ・デ・エクスポジションを本会議場とし、隣接のアクロポリスで友愛の広場や多彩な行事が展開された。

大会初日、開会式は2回に亘って開催されたが、2回共、会場に入りきれないほどの盛況だった。

カルロ・ラビッツァ大会委員長の歓迎の辞に始まり、圧巻はロータリー加盟国の国旗入場で日本は83番目、中でも紛争の最中にあるクロアチアには会場から大きなどよめきと拍手が送

られた。クロアチアからの参加は11名だった。

続いて、ハントレー会長の家族紹介と歓迎の挨拶があり、最後は民族舞踏、クラシックバレエ、フレンチカンカンとテンポの速い色彩豊かな舞台で締めくくった。

大会2日目、第2680地区計馬ガバナーは阪神大震災に世界中から寄せられた7億円余の義捐金に深く感謝された。

この日のハイライトは1995年国際理解賞がポリオプラスに貢献した元ユニセフ事務局長故ジェームス・グラント氏に贈られた事で、代わって後任のキャロル・ベーカー女史がこれを受け取った。

また、恒例の年次報告、財務報告が行われた外、記念講演でエジプト共和国スーザン・ムバラク大統領夫人から全世界の女性及び子供たちに明るい希望を与えるメッセージが送られた。



ニース国際大会本会議場



R財団ベネファクター楯受領

大会3日目、当2760地区はR財団ベネファクターが75名を越えた事を称えられ、楯を受領、大会舞台で石川ガバナーノミニーが他の地区代表共々紹介された。

この日はロータリー世界研修会が「50年間の国連との提携活動」「会員増強の傾向／ロータリーの成長」「環境保全の認識」「次期クラブ会長のオリエンテーション」等のテーマで催された。

夜は40万市民挙げての花のパレードがプロムナード・デ・ザングレで繰り広げられ、2時間に亘って、様々なデコレーションの山車や花合戦に酔いしれ、市民ぐるみの「友達になろう」を実践した。

最終日、規定審議会報告、国際ロータリー役員選挙等の案件が審議され、何れも原案通り承

認された。

また、1996～'97年度会長ノミニーにアルゼンチンのルイス・ビセンテ・ヒアイ氏が選出された。当地区からは70クラブ115通の信任状を石川ガバナーノミニーが持参した。

ハーバート・G・ブラウン会長の家族紹介と講演はこれら重要案件の後行われ、ブラウン会長はテーマ、「真心の行動、慈愛の奉仕、平和に挺身」について、その抱負を述べられた。

午後の閉会式は終始、ハントレー会長が司会、熱のこもったスピーチは会場を魅了、正に舞台の名優を思わせる感動のフィナーレだった。

最後の余興はピアノの魔術師リチャード・クレイダーマンの演奏に満場が沸き、全員による“蛍の光”の大合唱では舞台のハントレー会長の目に光るものが見えたのが強く印象に残った。

国際大会各種行事

◇6月11日(日) ————— 大会第1日

国際大会への登録、信任状の査証、チケット販売
大会プログラム・リーダーの会議
大会SAAの打ち合わせ会議
ポール・ハリス・フェロー昼食会
第1回本会議（繰り返して2回開催）

◇6月12日(月) ————— 大会第2日

国際大会への登録、信任状の査証、チケット販売
第2回本会議
会長主催慰労昼食会と元役員夫妻の懇親昼食会
第3回本会議
ホーム・ホスピタリティ

◇6月13日(火) ————— 大会第3日

国際大会への登録、信任状の査証、チケット販売
第4回本会議
会長エレクト主催リーダーシップ昼食会
ロータリー世界研修会
フェスティバルの夕べ

◇6月14日(水) ————— 大会第4日

国際大会への登録、信任状の査証
第5回本会議
最終本会議
閉会式
コート・ダジュールの見学

1995～'96年度に向けて 国際ロータリー第2760地区協議会

日時／平成7年5月20日(土) 会場／ホテルナゴヤキャッスル

名古屋東南ロータリークラブのホストにより、5月20日(土)蜂谷弘道ガバナー、石川和昌ガバナー・ノミニー、松本 宏次期ガバナー・ノミニーご指導のもと、開催されました。



第2760地区 地区協議会プログラム

次 第	時 間	
登録	9:30～10:20	
本会議	10:30～	(司会) 実行委員 吉 水 正 博 地区ガバナー 蜂 谷 弘 道 ソングリーダー 熊 谷 多 津 旺
点鐘		
国歌斉唱		
ロータリーソング「奉仕の理想」		
開会のことば		実行委員長 堀 田 一 郎
歓迎のあいさつ		ホストクラブ会長 近 藤 三 吉
特別出席者及び地区委員出席者紹介		地区ガバナーノミニー 石 川 和 昌
出席クラブ紹介		実行副委員長 鈴 木 敦 雄
地区ガバナーあいさつ		地区ガバナー 蜂 谷 弘 道
新しい年度の目標について	～11:30	地区ガバナーノミニー 石 川 和 昌
諸事お知らせ	11:30	実行委員 山 田 重 信
移動・昼食	11:35～12:30	
分科会	12:30～14:50	
移動・休憩	14:50～15:20	
本会議	15:20～	
ガバナー講評		地区ガバナー 蜂 谷 弘 道
ガバナー引継ぎ・記念バッジ贈呈		
ガバナーズクラブバナー贈呈		
ガバナーノミニーあいさつ		地区ガバナーノミニー 石 川 和 昌
次期ホストクラブ発表		地区ガバナーノミニー 石 川 和 昌
次期ホストクラブ代表あいさつ		小牧ロータリークラブ次期会長 穂 積 俊 文
ロータリーソング「手に手つないで」		ソングリーダー 熊 谷 多 津 旺
閉会のことば		実行副委員長 鈴 木 敦 雄
点鐘	～16:00	地区ガバナー 蜂 谷 弘 道

第1分科会

〈会長・幹事部会〉

(参加者)：146名 (会場名)：天守の間C

〈リーダー〉 ガバナー	蜂谷 弘道 (名古屋和合)
〈アシスタントリーダー〉	
1994～'95年度ガバナーノミニー	石川 和昌 (豊橋)
1995～'96年度ガバナーノミニー	松本 宏 (半田)
地区幹事	森 武保 (名古屋和合)
次期地区幹事	神野 紀郎 (豊橋)
次期地区会計長	内山 卯 (豊橋)
次期地区会計監事	川部 庭資 (豊橋)
次期地区資金委員長	鈴木 孝則 (あま)



まず蜂谷ガバナーより、石川ガバナーノミニーのお人柄の紹介に続き、各会長・幹事に対して、リーダーシップをしっかりとって立派なクラブを築き上げていただきたいとのお挨拶がありました。続いて石川ガバナーノミニーよりR.I.会長の意を尊重し、会員増強、ポリオプラスの衆知徹底等、あくまでも各クラブがベースとなる活動を行っていただきたいというご趣旨の挨拶が行なわれました。

その後、内山次期会計長から地区資金予算書と地区特別会計予算書の説明があり、承認されました。さらに、地区(又はガバナー)から各クラブ幹事への依頼事項については、ガバナー事務所と連絡を密にして徹底をはかってもらいたい旨、アシスタントリーダーから助言がありました。

最後に、蜂谷ガバナーからリーダーとしての心構えについてお話がなされ、有意義な分科会とすることができました。

第2分科会

〈クラブ奉仕・会員増強部会〉

(参加者)：153名 (会場名)：天守の間B

〈リーダー〉 次期クラブ奉仕委員長	稲垣 孝憲 (あま)
〈アドバイザー〉 パストガバナー	神戸 政治 (あま)
〈アシスタントリーダー〉	
次期地区拡大委員長	鈴木 孝平 (刈谷)
次期会員増強委員長	飯田 幸雄 (尾張旭)
次期広報副委員長	熊沢 登 (あま)
次期ロータリーの友委員長	福井 恒雄 (豊橋)
次期クラブ奉仕副委員長	南館 欣也 (名古屋中)



稲垣次期クラブ奉仕委員長より、クラブ奉仕委員会とは、クラブを建物に例えるならば基礎工事のようなもの、あるいは、人の生命維持装置のようなものであり、クラブ奉仕委員長の皆さんはそのカナメを握っており、その活動如何でクラブの活性化が左右されるとの講話がなされました。

引き続きアドバイザー・アシスタントリーダーの各氏よりそれぞれ約15分にわたって指針が示されました。神戸パストガバナーからは世界のロータリークラブの動向を中心にお話がなされました。会員増強については次期R.I.会長の「50人以下のクラブでは2名、50人から150人以下のクラブでは3名、150人以上のクラブでは4名を目標にする」との方針が紹介され、地区においてもそれに従って努力したいということが確認されました。

その後、熱心な質疑応答が各クラブ代表とアシスタントリーダーとの間に交わされました。

第3分科会

〈職業奉仕部会〉

（参加者）：76名（会場名）：青雲の間A

〈リーダー〉

次期職業奉仕委員長 岡本 纈二（名古屋名東）

〈アドバイザー〉

パストガバナー 加納 泉（名古屋中）

〈アシスタントリーダー〉

次期分区代理 市田 弘治（常滑）

次期分区代理 平野 義郎（田原パツフィク）

次期職業奉仕副委員長 森 澄（豊橋）

次期地区職業奉仕委員 川井 健司（名古屋守山）



まず、加納パストガバナーより「職業奉仕をめぐって」と題してのお話があり、中でもロータリーにとって職業というのは大変大切であり、自分の職業にプライドを持ち、高レベルの職業人であることを心掛けることが基本であるとの内容が印象的でした。続いて平野次期分区代理からは「職業宣言について」、市田次期分区代理から「四つのテスト」、川井次期地区職業奉仕委員より「ボランティア活動について」の話がなされ、最後に岡本リーダーから職業奉仕の考え方について総括的な提案がありました。

その後、質疑応答にはいり各クラブの代表から職業奉仕の考え方に関する数多くの質問が出され、熱心な意見交換が繰り返されました。

ロータリアン個人では、クラブ全体では、委員会としては、どのような取り組みをすれば良いのが次第にクリアにされ、内容の濃い分科会となりました。

第4分科会

〈社会奉仕・環境保全・RCC部会〉

（参加者）：144名（会場名）：銀の間

〈リーダー〉

次期社会奉仕委員長 神谷 邦夫（豊橋北）

〈アドバイザー〉

パストガバナー 宮地 信尚（豊川）

〈アシスタントリーダー〉

次期分区代理 福田 清成（江南）

次期社会奉仕副委員長 夏目誠一郎（名古屋中）

次期環境保全(小)委員長 石川 顕次（豊橋北）

次期RCC(小)委員長 伊藤 洵二（名古屋中）



アドバイザーの宮地パストガバナーより、地区の社会奉仕、環境保全、RCC活動について高い評価をいただくとともに、和気あいあいと分科会を進行したいとご挨拶がありました。

続いて、福田次期分区代理から、現在のような複雑な社会構成の中で社会奉仕委員会の働きの方が広がり、環境保全、RCCで代表される共同体活動の必要性が高くなってきている事が強調され、一同深く同感しました。

続いてパネルディスカッションに入り、神谷リーダー、石川(小)委員長、伊藤(小)委員長をパネラーとして、熱のこもった指針説明及び質疑応答が展開されました。特に、次年度基本方針はR.I. ブラウン会長の方針の具現化を第一として、地域ニーズに応じた活動を続けていくことが確認されました。

第5分科会

〈国際奉仕部会〉

(参加者)：81名 (会場名)：青雲の間B

〈リーダー〉

次期国際奉仕委員長 吉村 卯一郎 (名古屋名北)

〈アドバイザー〉

バストガバナー 福田 浩三 (名古屋空港)

〈アシスタントリーダー〉

次期国際奉仕副委員長 松原 忠久 (名古屋和合)

次期青少年交換(小)委員長 林 光雄 (名古屋西)

次期世界社会奉仕(小)委員長 牧 真 (岡崎南)

次期国際友好(小)委員長 中野 博三 (豊橋南)



吉村次期委員長より、国際奉仕活動とは何かについての総論説明があり、国際理解の推進と平和への献身の重要性を再認識して活動に当たりたいとの話がなされました。

福田アドバイザーからは、国際奉仕活動は時間、労力ともに大変かかるが、一番やりがいのある委員会であるとの激励を受けました。又、R.I.会長の今世紀中に地球上からポリオを絶滅させようとの高邁な理念の実現のために、我々も全力を挙げて活動する必要があることが力強くアピールされました。

続いて青少年交換、世界社会奉仕、国際友好の各小委員長からのそれぞれの活動方針説明、それを受けての質疑応答など、内容豊富な分科会となりました。

第6分科会

〈青少年活動部会〉

(参加者)：110名 (会場名)：青雲の間C

〈リーダー〉

次期青少年活動委員長 宮本 昌幸 (岡崎南)

〈アドバイザー〉

バストガバナー 盛田 和昭 (名古屋)

〈アシスタントリーダー〉

次期青少年活動副委員長 小保川二郎 (名古屋北)

次期インターアクト(小)委員長 坂本 康信 (名古屋)

次期ローターアクト(小)委員長 野崎 洋二 (名古屋瑞穂)

次期ライラ(小)委員長 岡部 快園 (名古屋大須)



社会が複雑化し、青少年が目標を失いがちな情勢の中で、ロータリーにおける青少年活動の地道な歩みが必要となってきたことを背景に、盛田バストガバナーから話されました。ただし、各クラブの独自性と新しい考えのもとに行なうことが良いとのご意見が出されました。

続いて、宮本リーダー、坂本、野崎、岡部の各アシスタントリーダーからそれぞれの担当分野についての指針表明がなされました。また、それに基づいて出席者の中から質問が多く出され、分科会場は熱心な雰囲気の中で進行されました。

最後に、盛田バストガバナーが講評され、当地区青少年活動の将来が楽しみであると話されました。

第7分科会

〈ロータリー財団部会〉

(参加者)：76名 (会場名)：金の間

〈リーダー〉 次期ロータリー財団委員長 矢島 茂 (名古屋守山)

〈アドバイザー〉

次期ロータリー財団カウンセラー 星野 充 (一宮)

次期財団奨学金(小)カウンセラー 小出 忠孝 (名古屋東)

〈アシスタントリーダー〉

次期分区代理 荒木 巖 (名古屋港)

次期ロータリー財団副委員長 鈴木 茂雄 (豊橋南)

次期財団奨学金(小)副委員長 酒井 孝 (一宮)

次期財団学友会(小)委員長 梅村 東 (豊橋ゴールデン)



まず、ロータリー財団の発祥、活動の歴史や基金の動きなどを中心に、これまでの経過が矢島リーダーから説明されました。特に当地区から1948年に初めて奨学生がアメリカの大学院に留学を果たしたのをはじめとする様々な歴史的エピソードの説明は、参加者それぞれにとって興味深い話でした。

続いて荒木氏から「ロータリー財団の現況」、鈴木氏から「ロータリー財団奨学生への期待」、酒井氏から「財団奨学金の現況」、梅村氏からは「学友会について」の説明がなされました。

国際化が進み留学生が増える情勢を反映し、日本全体では世界の中で重要な位置を占めているが、日本における当地区の基金、受験生の状況などは平均的な数字となっていることなどが話され、これをより拡大するための質疑応答が活発に交わされました。

第8分科会

〈米山記念奨学会部会〉

(参加者)：71名 (会場名)：藤の間

〈リーダー〉

次期米山記念奨学会委員長 小田 公平 (豊橋)

〈アドバイザー〉

バストガバナー 奥谷 博俊 (尾張旭)

バストガバナー 田中 徹 (半田)

次期米山記念奨学会カウンセラー 米田 春雄 (岡崎)

〈アシスタントリーダー〉

次期分区代理 加藤 正男 (岡崎南)

次期米山記念奨学会副委員長 天野 久 (西尾)



奥谷アドバイザーより、米山記念奨学会は世界でも例のない組織であり、素晴らしい事業をやっていると、国際ロータリーでも高い評価を受けていることが紹介され、参加者に深い感銘を与えました。また、私費留学生を対象にしている米山奨学金は、質・量ともに日本で一番の制度であることが説明されました。

このような素晴らしい制度が、対象留学生とともにロータリーの精神を共に高揚していき、民間大使としての役割を果たしていくことに大いに役立っていることが、各アドバイザー、アシスタントリーダーの話から浮き彫りにされ、一人でも多くの奨学生を受入れるべく、普通寄付金を一人当たり3,000円以上に増額願いたいとの要望が出されました。

質疑応答をはさんで、今後とも各クラブにおいてよりご協力くださるよう要請され、一同諒承し、密度の高い活動を展開する事を確認し合って閉会しました。

第9分科会

〈新入会員・一般参加者部会〉

(参加者): 401名 (会場名): 天守の間A

〈リーダー〉

パストガバナー

高沢 隆 (豊橋)

〈アシスタントリーダー〉

次期分区代理

浦野 三男 (名古屋北)

次期分区代理

松前 憲典 (一宮中央)

次期分区代理

石川八郎右衛門 (碧南)



登録人員総数404名、そのうち378名が新入会員という盛況の中で開会した当分科会では、冒頭、高沢リーダーから、地区協議会が年度の地区における最も大切な会合であること、「入りて学び、出でて奉仕に邁進せよ」との精神が強調されました。また、ロータリーの国際協議会やR.I.会長の方針などを中心に、ロータリーの歴史、今日までの発展の経緯、基本理念などについて、各アシスタントリーダーからお話がありました。

さらに、リーダーからの「忌憚なく、ロータリーはかくあるべきだとか、こんな活動はどうかなど、どんなことでもフランクに話し合いましょう」との意見を受けて、次第に会場の雰囲気もうちとけ、活発な意見交換がなされるとともに、ロータリーの精神や活動について有意義な研修の機会となりました。

第2760地区ニュース・その他

「国際ロータリー日本支局」が 名称変更されました

去る7月1日より「BRANCH OFFICE」の呼称が「SERVICE CENTER」へと変更されました。これに伴い「国際ロータリー日本支局」は「国際ロータリー日本サービス・センター」へと名称変更されました。尚、住所および各室の電話・FAX番号は以下の通りです。

〔国際ロータリー日本サービス・センター〕
〒160 東京都新宿区新宿1-36-12 サンカテリーナビル1階
資料室・他 Tel: 03-3355-5391 Fax: 03-3226-4606
奉仕室 Tel: 03-3355-5383 Fax: 03-3226-4606
財務室 Tel: 03-3355-5425 Fax: 03-3226-4606

例会場及び ビジターフィー変更のお知らせ

田原RCの第3例会例会場及びビジターフィーは、平成7年7月より下記のように変更になりました。

第3例会例会場	田原シティホテル
点 鐘	12時30分
ビジターフィー	1,800円 → 2,000円
開 始 日	平成7年7月～

※ 尚、第3例会以外の例会場は、今まで通り蒲郡信用金庫田原支店を使用します。

計 報

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。
7月3日 河合 茂治様 (豊田RC)

1997～'98年度 ガバナー・ノミニー候補者の推薦について

国際ロータリー第2760地区
指名委員会は各クラブに対し、
次の通り1997～'98年度（松
本年度の翌年度）ガバナー・
ノミニー候補者指名案の提出
を要請致します。

提案は、候補者推薦クラブ
の例会で選択され、クラブ幹
事によって正式に証明された
決議という形式で提出して下
さい。

尚、推薦クラブの他、地区

内5クラブの推薦を必要とし
ますので、この点特にご注意
願います。

詳細は、R.I.細則第12条
第7節をご参照下さい。

地区指名	委員長	加納 泉
〃	副委員長	神戸政治
〃	委員	宮地信尚
〃	〃	蜂谷弘道
〃	〃	石川和昌

* * *

[送付先]

〒440

豊橋市花田町石塚42-1

豊橋商工会議所

6階606号室

国際ロータリー第2760地区

ガバナー 石川和昌

[締切り]

1995年8月31日 必着

* * *

ロータリー文庫通信（第94号）

ロータリー文庫は皆様のお陰で本年創立25
周年を迎えることができました。1970年（昭
和45年）「ロータリー資料室」として誕生し、
3年後の1973年9月には「ロータリー文庫」
に改称され現在に至っています。

「文庫」が生まれたそもそもの発端は、
「ロータリー日本五十年史」の編さんと非常
に関係があります。いろいろ集めた資料が散
逸しないような活用方法はないか考えた結果
が、「資料室」の誕生に結び付いたのです。

開設当初は300万円だった予算も、今で
はその十倍以上にもなり、保有する文献資料
も1万7千点を越えております。

当時を振り返り、全国の皆様にお育てい
ただいた念を一層深くし、厚く感謝いたして
おります。

この度運営委員会では、皆様に支えられて
いる「文庫」が25周年を迎えた記念事業とし
て、R.I.事務局のご協力をいただき、R.I.

議事録の中から日本ロータリー史に関係の深
い部分を抜粋して発刊させていただきました。

ロータリーが日本に導入された時の記録、
ならびに再導入するための交信内容は極めて
重要な資料と思われます。

ロータリー文庫は、今後も皆様と共に歩み、
世界に誇れる「文庫」として努力してまいり
たいと存じますので、宜しくお願い申し上げ
ます。

「R.I.議事録抄-R.I.の記録から

みた日本ロータリー史の一面」

1995年 19頁（B5版）

[申込先 ロータリー文庫]

ロータリー文庫

〒105 東京都港区芝公園2-6-3abc会館7階

TEL (03) 3433-6456 FAX (03) 3459-7506

開館＝午前10時～午後5時 休館＝土・日・祝祭日